事例No.	1228
公表年度	R2
団体の属性	一般市
団体名	島根県浜田市

事例区分	地域活性化

タグ	・移住定住 ・関係人口 ・地域運営組織

事例種類	移住促進

事例内容・タイトル

２種類の相談員による丁寧な情報提供・サポート体制

出典

「地方への人の流れの創出」に向けた効果的移住定住推進施策事例集

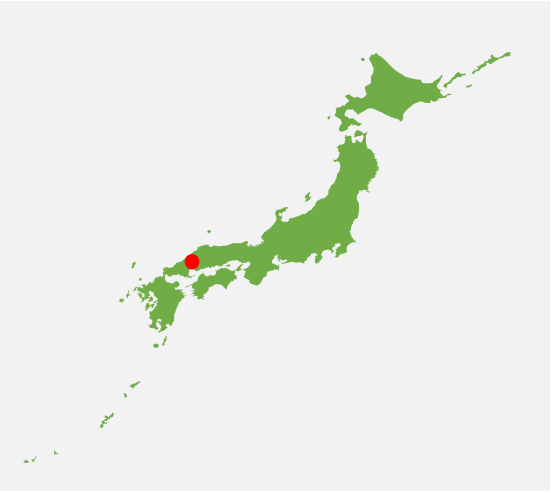
（8）島根県浜田市　2種類の相談員による丁寧な情報提供・サポート体制

■浜田市の取り組みの特長・ポイント

◆ **暮らしや仕事は「定住相談員」、住まいは「空き家バンク相談員」、2人の専任相談員が連携**して、移住希望者への対応にあたっている。
◆ 定住相談員の取り組みや経験を生かし、**「移住のトリセツ～はまだ暮らしのはじめ方～」**をホームページ上に整備。**7つのステップで、何を考え、誰に相談し、解決していくと移住が実現するか、必要な情報へのリンクとともに分かりやすく解説。**

■分類

地域	立地特性	人口規模	時間距離
中国	海・山・雪	中 5.3万人	遠 6時間30分



■特徴的なフェーズ



【移住関心層への広報・情報収集】
「はまだ暮らし」として具体的な浜田市での暮らしのイメージ、移住までのステップを分解して丁寧に解説、対面・オンライン含め、様々なツールで情報収集・相談可能な環境を整備。

【仕事】
定住相談員が移住者向けに独自に開拓したインターンを実施。

【住まい・生活】
定住相談員と別に、住まい探しのために**空き家バンク相談員**を設置し、きめ細かいサポートを実施。

■移住定住施策の取り組み体制

- **主管課**
  - 定住関係人口推進課移住定住係 5人（課・係＋**定住相談員・空き家バンク相談員**）
- **協力体制**
  - 庁内：農業、子育て支援の関係課等と連携
  - 庁外：島根県、ふるさと島根定住財団、就職サポートセンター島根、NPO法人等と連携。
- **現在の体制に至るまでの経緯等**
  - **空き家バンク相談員・定住相談員は、5～6年前から専任**で行っている。浜田市は空き家バンク登録物件が多いこと、移住施策は息が長い取り組みであり、長期間きめ細かい対応が求められることから、専任でのサポートが必要となり、現在、2人の相談員であたっている。

■関心を持ってもらうため、関心を持った人への情報提供のための取り組み

① 移住関心層への広報

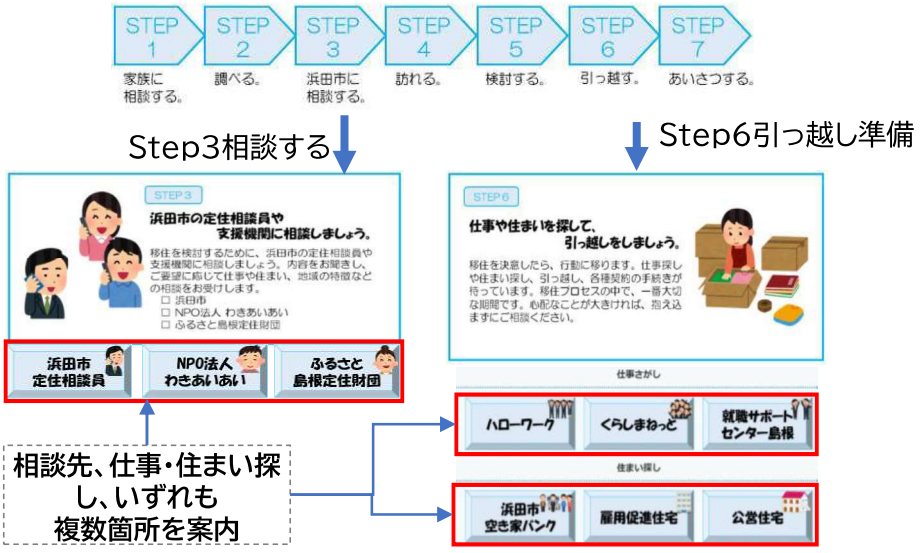
- **「はまだ暮らし」のコンセプトを複数の移住者像とともに提案**（下図）、ホームページ/SNS等での発信、独自のPRイベントも実施している。
- 集客力・経費の両面から、**（公財）ふるさと島根定住財団の移住促進イベントを積極的に活用。**今年度は、（公財）ふるさと島根定住財団としてオンラインでの移住イベントが実施され参加した。
- 【SNS】LINE、Facebookを活用
  - **LINE**：月1～3回配信、緩やかな関係を形成するツールとして、関係人口と一緒に、**浜田市への関心・関係を持ち続けられるよう働きかけ。**
  - **Facebook**：LINEでの配信情報の他、**空き家バンクの更新時にもお知らせをアップ。**



図：はまだぐらしのパンフレット
出所：浜田市ホームページ
https://www.city.hamada.shimane.jp/www/contents/1580954418252/index.html

② 情報収集段階

- 定住相談員等の経験値にもとづき、**「はまだ暮らしのトリセツ」として情報収集から実際の移住までを7ステップに分解、簡潔に解説。**各ステップでの相談先・補助も、1つのホームページに集約している。



図：はまだ暮らしのトリセツ
出所：浜田市ホームページ
https://www.city.hamada.shimane.jp/www/contents/1580954418252/index.html

■具体的な検討を始めた人への「仕事」「住まい・生活」「心理面」でのサポート

③ 仕事

- ハローワークの求人、「くらしまねっと」の求人情報をもとに紹介する他、**定住相談員が地元企業を訪問し、潜在的な求人希望を汲み取り、移住希望者とマッチングする「浜田deしごと合宿インターンシップ事業」**を行っている。
- 企業を訪問して得られた**「UIターン者で、こういう人に来てほしい」という情報をもとに、移住希望者へ紹介できる仕事の選択肢の幅を広げている。**移住希望者の代わりに企業を回って移住希望者をアピールすることもある。



図：浜田deしごと合宿インターンシップ事業のホームページ

出所：浜田市仕事体験予約サイト
https://www.hamadataiken.jp/categories/5d759c356c6f63036c760100

- 最終的なマッチングでは「インターンシップ事業」として、移住希望者が地元企業経営者から話を聞いたり、プログラムに参加したりして、就職を決める。
- 企業からも「移住希望者から浜田市の移住定住施策について聞かれた時に答えられるように」と、質問がある等、**企業も巻きこんで、地域みんなで移住希望者の支援**を行っている。

浜田市就農・生活パッケージ

- 浜田市内での就農を考えている人が、地元の先進的な実践農業者のもとで経験を積める農業研修制度。希望する就農形態別の就農・生活支援のパッケージが整備されている。主な移住・就農支援は以下の通りであり、この他、研修期間中の家賃補助・研修棟も整備されている。



図：主な移住・就農支援メニュー

出所：浜田市提供

- 就農希望者の希望する農業の形態や考えについてヒアリングし、現地見学で様々な作物に触れ、研修先の候補を絞ったら、2～3日程度の短期研修を経て、本格的な研修に入る。

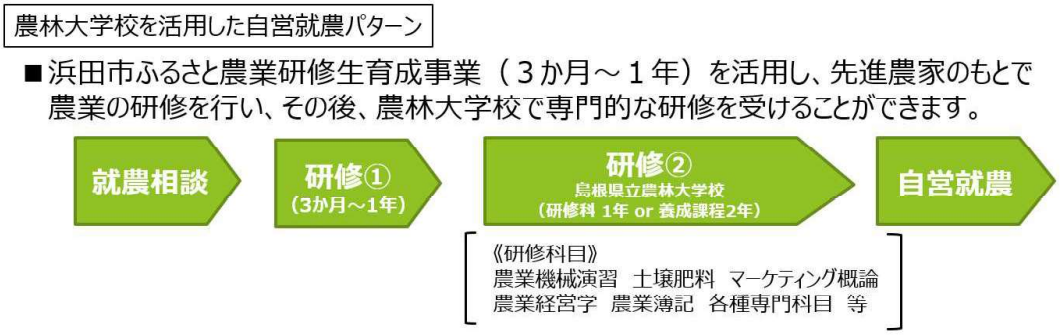


図　ふるさと農業研修生～自営・独立までの流れ（自営就農パターンの例）

出所：浜田市農林業支援センター提供

④ 住まい・生活

空き家バンク

- 空き家バンクの登録は、一昨年80件、昨年70件、今年も同水準、市内転居も含めると**毎年の成約率は約80%、UIターンが約1/3程度**を占める。
  - 約2：1の比率で売買・賃貸両方の物件があり、**賃貸を希望する傾向にある若い移住希望者に対しても、空き家バンクからマッチングできる。**
  - **登録物件の件数・多様性とともに、成約率が高いため、地域の一般的な不動産検索サイトとして機能していることも一因**である。
  - 改修助成に上限30万円（UIターン者・市内在住者でも40歳未満なら50万円）の優遇を活用して、空き家バンクで取得した住宅を改修して住む人も多い。



図　浜田市空き家バンクのホームページ

出所：浜田市空き家バンクのホームページ
http://www.hamada-akiya.com/index.html?PHPSESSID=e8d86f94952d8790dc940cfc2526f44d

⑤ 心理面のサポート・⑥ 決断する段階

- 最終的には、個別相談対応になるので、**相談員が丁寧に対応**する。
- **一般的には、仕事が決まってないのに住まいを探そう…とはならないので、仕事場を決めることを優先**する。希望を聞き、**浜田市に足を運んでもらい、地域性を知ってもらい、教育関係・買いもの等行ってみたい所を見ていただきながら、仕事を決めていってもらうことで、最終的に決断できる状況になる。**

■その他の特徴のある取り組みについて

定住相談員と空き家バンク相談員が、情報提供から決断までを連携サポート

- 浜田市への移住に興味を持って情報収集する段階から決断に至る流れを、具体的にどのようにサポートしているのか、相談員にインタビューしました。

定住相談員（宇川さん・相談員歴3年）

Q：普段、どのように移住希望者からの相談を受けていますか？

A：**まずは聞き取り**をして、仕事・住まい探し等、具体的な検討のプロセスで役立つ**補助制度やプログラムの情報を案内**します。その後、希望があれば**仕事のマッチングを支援**します。仕事が決まり、**住まいを探す段階になったら、空き家バンク相談員に引き継ぎ**ます。

Q：どんな移住者・希望者が多いですか？

A：移住者は何かしら**浜田市に縁がある人**が多いです。最近は、**感染症が収束したら本格的に検討したいと仰る人も結構いらっしゃいます。**



図：定住相談員：宇川さん
出所：浜田市提供

空き家バンク相談員（大草さん・相談員歴5年）

Q：浜田市の空き家バンクは、**移住者とのマッチング例も多いと聞きましたが、強みは何でしょうか？**

A：**登録件数の多さ、物件の幅広さ、成約率の高さを兼ね備えていること**です。空き家バンクの存在が、地域で十分に認知され、普段から活用されているため、**住民や不動産会社からも空き家バンクへ、様々な持ち込み・紹介があり、ますますマッチングが進みやすくなります。**

Q：空き家バンクの利用者は移住者希望者に限らず様々な人がいると思いますが、**移住希望者への対応で、特に気をつけていることはありますか？**



図：空き家バンク相談員：大草さん
出所：浜田市提供

A：移住希望者は、土地勘がない場合も多いため、**ホームページに掲載されている物件の条件だけで決断しないよう、周辺環境・職場・暮らし方等との関係についてアドバイス**しています。**現地を見て確認してもらうことも大切です。写真には、虫までは写りませんからね。**

■新しい取り組み、感染症影響下での挑戦等

Zoomでの魅力発見オンラインツアーの試み

- 参加者10名、浜田市で活躍する人、U・Iターンの人に話をしてもらった。もともとは浜田市まで来てもらって、職場・観光地等を紹介していたものを、オンラインで開催。所要時間90分。
- 【メリット】現地訪問に比べると、移動がない分、所要時間が短くなり、どこからでも気軽に参加し、情報を仕入れられる。参加者は、地元の協力者のユニークな人柄を楽しみつつ、じっくりと話を聞けて、暮らしぶり・生活感は確認できたようだった。
- **【デメリット・課題】まち並みや空気感等を実感する機会としては不十分**だった。仕事や企業の話が、時間内に十分にできなかったので、オンライン・短時間での実施の場合の時間配分については今後の改善が必要。



図：オンラインツアーのチラシ
出所：浜田市提供



図　オンラインツアー時の様子
出所：浜田市提供

（公財）ふるさと島根定住財団が開催したオンライン移住イベント（2回）

- 2020年10月・11月に開催された、（公財）ふるさと島根定住財団主催のオンライン移住イベントに浜田市も参加し、**特設サイトでの情報発信や、相談会、企業の紹介を実施したほか、魅力化を推進している高校がブースを出す等**した。
- 参加者が市町村のページに入ると、オンラインで話せる形になっていた。県内でも松江市・出雲市等有名な市町村への相談が多くなりがちだが、**ふるさと島根定住財団の方が、市町村と移住希望者の間に入って振り分けてくれて、それなりに相談もあった。**
- オンラインでは、通常だとかかる旅費・時間がかからないため、**普段のフェアでは滅多に会えない北海道の人等、色々な地域からの参加があるのが良かった。**



図：イベント特設サイト内の案内（11/28開催分）
出所：くらしまねっと・イベント特設サイト　https://shimane-web.jp/